

Glocal Tenri



2

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.16 No.2 February 2015

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
「安全保障」について
／深谷忠一..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (89)
近愛文書^⑩
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (8)
「をや」の信賴
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～
「こと」的世界観への未来像～ (10)
第1章「もの」と「こと」の意味論^⑧
／井上昭夫..... 4
- ・ 「おふでさき」の有機的展開 (34)
第六号：第一首～第二十八首
／深谷耕治..... 5
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (2)
教義の言語的展開と「道」
／澤井治郎..... 6
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (22)
日本の新宗教の組織的展開^⑥
／山田政信..... 7
- ・ 地域福祉を拓く ー新たな寄付文化の
創造ー (2)
地域福祉の考え方と理論
／渡辺一城..... 8
- ・ ノーマライゼーションへの道程 (35)
連載をふりかえって
／八木三郎..... 9
- ・ 天理参考館所蔵の漢族資料 (12)
門扉と龍柱
／中尾徳仁..... 10
- ・ ヴァチカン便り (12)
クリスマスに際して
／山口英雄..... 11
- ・ 開講 20周年記念・公開教学講座 (3)
第2講：かしまの・かりもの
／澤井義次、幡鎌一弘..... 12
- ・ English Summary..... 13
- ・ おやさと研究所ニュース..... 14

人権問題研究室公開研究会にて発題 (堀内みどり) / 第276回研究報告会 (11月28日) 17世紀初頭の長崎における聖なる空間と「小教区制度」(トロヌ・カルラ) / 「第2回宗教研究会「アメリカ合衆国における同性婚と宗教」金子珠理 / 第277回研究報告会 (堀内みどり) / 第60回伝道研究会「シンガポール出張所の文化活動」(森洋明) / 第12回「宗教と環境」研究会を開催 (佐藤孝則) / 新刊案内 / 「開講20周年記念・公開教学講座」 / 「前教学講座」申し込み受付 / 『グローカル天理』年間購読のご案内

巻頭言

「安全保障」について

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

過日の『夕刊フジ』(2014年11月21日発行)に、ケント・ギルバート氏(カリフォルニア州弁護士・タレント)の次のような文が載っていました。

「平和主義を掲げた日本国憲法を守っていれば他国は日本に戦争を仕掛けてこない」という無邪気で無責任な主張をする人々に、ぜひ一度、試してほしいことがある。

(私はこの地域を犯罪のない誇りある場所にしたいのです。従って、わが家はドアと全ての窓、自家用車、自転車にカギを掛けません。わが家には武器は一切なく、もし強盗や強姦魔が侵入しても、決して反撃しません。)

このような張り紙を、自宅のドアや壁、車などに貼るのである。そしてどの程度の期間無事でいられたのか、私に報告してほしい。英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語も併記して、インターネット上で、住所、氏名、電話番号、所有財産まで公開すれば完璧である。

もし1カ月間無事であれば、日本の驚異的な治安の良さに感謝すべきだ。だが、それを行う勇気がないのであれば、同様の行為を国家に求める自分の浅薄さと身勝手さを恥じた方がいい。

日本の治安が世界一なのは、日本人の国民性と警察のおかげである。地域の安全を守るのが警察であるように、国家の安全を守るのが軍隊だ。日本が戦後70年間も無事でいられた理由は憲法第9条ではなく、在日米軍、自衛隊、日米安保条約のおかげである。

さて、この記事を読んで筆者の頭に浮

かんだのは、『稿本天理教教祖伝逸話篇』の二つの逸話です。一つは114の

“泉田藤吉氏が、十三峠で3人の追剥に会った時、かしまの・かりもの教えを思い出して、盗賊から言われるままに、着物を皆脱いで財布をその上に載せて、「どうぞ、お持ちかえり下さい」と正座して頭を下げたところ、追剥は一物も取らずに行き過ぎた。”

という話。もう一つが、188の

“ある時、お屋敷へ5、6人の壮漢が暴れこんできた。2階で会議をしていた取次の人々は走って下りて、暴徒を相手に命をかけて防ぎ戦い、皆で暴徒を組み伏せ警察へ通知した。大活躍した平野植蔵氏に対して、教祖が「この者の度胸を見せたのやで。明日から、屋敷の常詰にする」と言われた。”という話です。

ギルバート氏に、「世の全ての人々が泉田藤吉(天理教信者)になれば、警察や軍隊は不要になります」と言うのか、「暴力・犯罪を抑止する力は必要で、無頼漢へ立ち向かう勇気はお道でも称賛されます」と答えるのか…?

今から30年ほど前、筆者が会長に就任した当初は、教会の表玄関に鍵をかけていませんでした。しかし、その後、賽銭泥棒に何度か入られて、夜間は施錠をするにしました。“神様への真実のお供えを盗まれてはいけない”“盗人を作る環境を放置して、誰かに悪いんねんを積ましてはいけない”そういう思いもありましたが、一番の理由は、“教会在住者が暴漢と鉢合わせして怪我などするのを避けたい”というものでした。

安全保障への答えは、“理想は泉田流なれども、現実には平野流…?”筆者が長年答えを出すのに悩ましく思っている課題です。